

第97期 株主通信(中間期)

平成19年4月1日～平成19年9月30日

ダイワホールディングス

株主の皆様には、ますますご清祥のことと心からお喜び申し上げます。

平素は格別のご支援を賜り、有り難く厚くお礼申し上げます。

さて、第97期株主通信(中間期)をお届けするにあたりまして、一言ごあいさつ申し上げます。

当中間期のわが国経済は、企業収益の改善による設備投資の増加とアジア向けを中心とする輸出の増勢を背景に、景気は企業部門を中心に緩やかな拡大を続けてきました。

当社グループを取り巻く環境は、輸入品の流入により国内市場が縮小するなか、天候不順や高止まりする原燃料価格が収益を圧迫するなど、依然として厳しい状況で推移しました。

このような状況のなか、当社グループは、純粹持株会社体制のもとで経営改革の総仕上げとして執行役員制度を導入し、経営の意思決定の迅速化と監督機能の強化を図り、効率的で機動的な経営体制の構築を目指すとともに、開発から生産・販売までの実行スピードを上げ、独自の商材および新たな商流の事業収益化に努めてまいりました。

これらの結果、当中間期は産業界の旺盛な投資意欲を背景に化合織・機能資材事業が収益を伸ばし、売上高は前年同期に比べ9億9千5百万円増収の337億9千2百万円となりました。また利益面においては、前年同期に比べ営業利益は6千7百万円増益の7億1千3百万円、経常利益は1億1百万円増益の10億1千9百万円、中間純利益は1千2百万円増益の4億3千9百万円となりました。

さて、今後の経済見通しにつきましては、企業部門の好調が持続し景気は緩やかに拡大すると予想される一方で、サブプライムローン問題に端を発した米国経済の先行きや、依然として高騰が続く原油価格の影響が懸念され、当業界におきましても引き続き厳しい事業環境が続くものと推測されます。

このような状況に鑑みまして、株主の皆様には誠に申し訳ない次第ではありますが、中間配当につきましては見送らせていただきましたので、なにとぞ事情ご賢察のうえ、格別のご理解を賜りますようお願い申し上げます。

当社グループといたしましては、平成18年4月から経営3カ年計画「ニューステージ21」第二次計画(副題:新たな世紀のダイワボウの創造に向けて)をスタートさせ、本年度はその2年目にあたる重要な年であり

ます。事業分野別の施策では、衣料品・生活資材事業は、まず6月のダイワボウマテリアルズ株式会社舞鶴工場の火災事故で失った紡織関連の生産基盤を新しい形で早期に立ち上げることが喫緊の課題であります。具体的には、特化素材の開発・生産は国内グループ会社、その他の差別化素材や汎用品は海外事業会社などと連携を強め、今までとは違った形で専門性を高めながら、国内外の生産・販売拠点とのネットワークを一層強化し、テキスタイル・製品事業を軸とした国際マーケットへの事業展開を進めてまいります。また、生活資材分野では、かゆみ鎮静化繊維の製品販売事業において、現行の医療機関を介した販売方法に加え、店頭販売や通信販売など新たな販路を開拓してまいります。

化合繊・機能資材事業においては、化合繊部門では原燃料価格の高騰への対応を進めるとともに、研究開発による独自性を高めた高付加価値製品の市場投入および製造部門の生産性向上により、収益基盤の強化を図ってまいります。機能資材部門では、カートリッジフィルター、土木資材を中心に、環境に配慮した製品展開および新規市場の開拓を進めてまいります。

さらに、今期に設置した戦略技術室を軸に、事業会社間の固有技術のグループ横断的活用とグループ経営資源の効率的な配分や最適配置により、全体最適の視点で事業領域の拡大を図るとともに、法令遵守と内部統制に対する取り組みと併せて、長期安定的な企業価値の向上を目指してまいります。

どうか株主の皆様には引き続き倍旧のご支援とご理解を賜りますようお願い申し上げます。

平成19年12月

代表取締役社長

菅野 肇



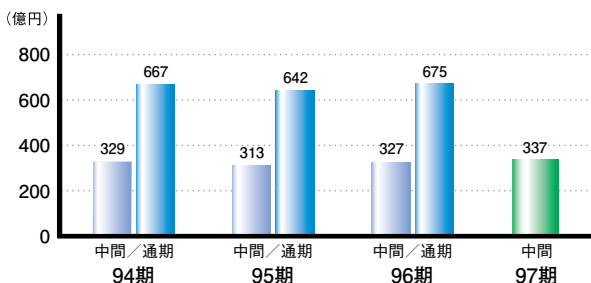
決算ハイライト（連結）

1. 連結業績等の推移

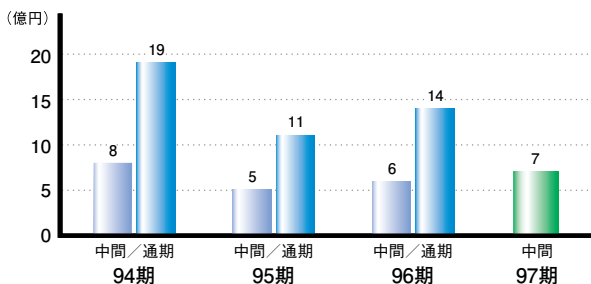
	95期 (平成18年3月期)		96期 (平成19年3月期)		97期 (平成20年3月期)
	中間期	通 期	中間期	通 期	中間期
売 上 高 (百万円)	31,316	64,226	32,797	67,530	33,792
営 業 利 益 (百万円)	563	1,108	646	1,427	713
経 常 利 益 (百万円)	786	1,796	917	1,993	1,019
中間(当期)純利益 (百万円)	357	1,071	427	945	439
総 資 産 (百万円)	87,162	88,284	86,224	86,155	86,876
純 資 産 (百万円)	29,627	28,847	28,460	28,714	28,472
1株当たり中間(当期)純利益 (円)	2.62	7.83	3.13	6.93	3.22
1株当たり純資産 (円)	217.24	211.51	204.04	205.67	203.55
1株当たり配当金 (円)	—	3.00	—	3.00	—

2. 推移グラフ

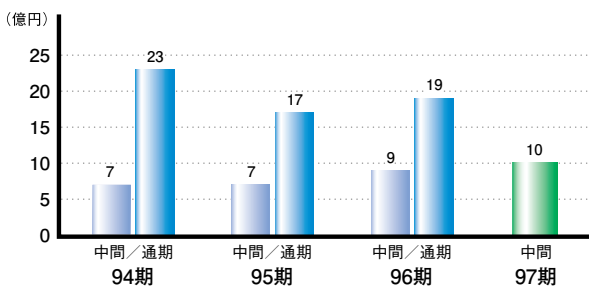
■売上高



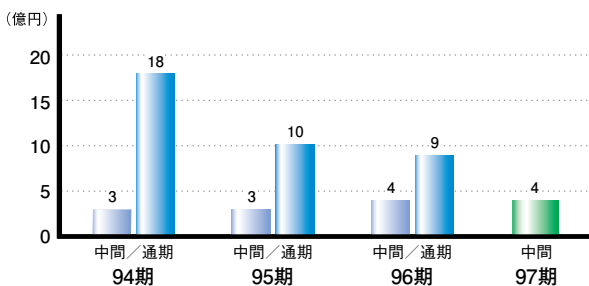
■営業利益



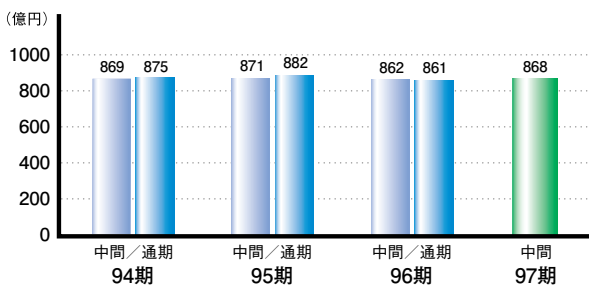
■ 経常利益



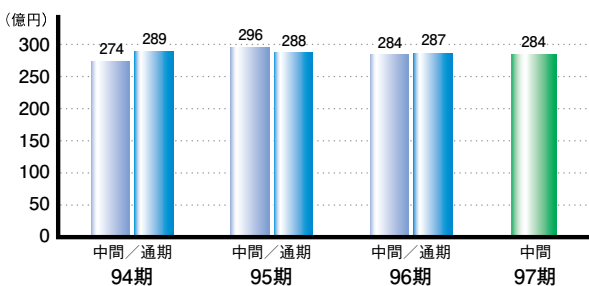
■ 中間(当期)純利益



■ 総資産



■ 純資産



衣料品・生活資材事業

製品部門では、インナー製品は海外生産拠点を活用したトランクスや機能性インナーを中心に好調に推移しましたが、ニット・カジュアル製品は天候不順による需要不振や消費者ニーズの多様化などの影響を受け販売が減少しました。

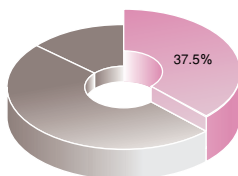
素材・テキスタイル部門では、輸入製品の流入により国内市場が縮小するなか、衣料用テキスタイルにおいては新規の有力SPA（製造小売業）との取り組みをはじめ一定の成果はありましたが、寝装用テキスタイルにおいては寝装品全般の市況悪化が影響し販売が減少しました。素材部

門においては、不採算商品から開発品を主体とした高付加価値商品への転換を図りましたが、販売数量が伸び悩んだほか海外紡績事業も振るわず厳しい状況が続きました。

以上の結果、当事業の売上高は119億1千9百万円(前年同期比1.3%減)となり、営業損失は6千4百万円(前年同期は7百万円の営業損失)となりました。



機能性インナー



非繊維事業

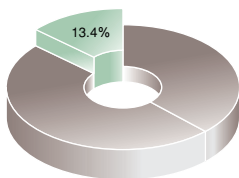
ゴム部門では、工業用スポンジ分野においては、車両向けやレジャー用途が順調に推移しましたが、ボール分野では新意匠ボールの特需効果の収束により販売数量が減少し、部門としては減収減益となりました。

ホテル部門では、施設のリニューアル効果により収益を伸ばしましたが、エンジニアリング部門では、公共工事が減少するなか競争激化により受注金額が低迷し厳しい状況となりました。

以上の結果、当事業の売上高は40億1千1百万円(前年同期比17.1%減)となり、営業利益は1億5千3百万円(同10.4%減)となりました。



霧島国際ホテル



化繊・機能資材事業

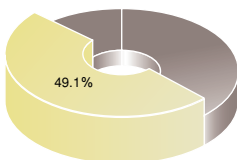
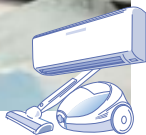
化繊部門では、原燃料価格高騰に対する価格は正に取り組むなか、合繊分野の合繊綿は衛生材用途および建材用途を中心に好調に推移し、不織布は衛生材向けを中心としたレーヨン系不織布の販売が拡大しました。レーヨン分野では、世界的な需要拡大に支えられ国内需要が回復するとともに、防災素材などの差別化素材の拡販により収益を伸ばしました。

機能資材部門のうち、カンバス分野では、販売数量の増加とコスト削減により増収増益となりました。機能製品分野では、カートリッジフィルターは国内液晶関連市場とアジア向け輸出が順調に伸び、土木資材もトンネル用・河川用シートの需要が増加し販売は拡大しました。一方、樹脂加工分野では、耐熱断熱シートは堅調に推移しましたが、原材料価格の高騰と需要減退により苦戦を強いられました。

以上の結果、当事業の売上高は178億6千1百万円（前年同期比12.5%増）となり、営業利益は6億2千5百万円（同29.4%増）となりました。



アレルキャッチャー
(フィルター素材)



当中間期の事業別の概況

(単位：百万円)

	売上高			営業利益		
	前中間期	当中間期	増減	前中間期	当中間期	増減
衣料品・生活資材事業	12,077	11,919	△157	△7	△64	△57
化繊・機能資材事業	15,880	17,861	1,980	483	625	141
非繊維事業	4,838	4,011	△827	171	153	△17
合計	32,797	33,792	995	646	713	67

中間連結貸借対照表

(平成19年9月30日現在)

科 目	当中間期(97期)	前期(96期)
(資産の部)		
流動資産	32,595	32,427
現金及び預金	6,007	6,131
受取手形及び売掛金	16,349	17,006
棚卸資産	7,368	7,481
繰延税金資産	1,192	970
その他	2,048	1,258
貸倒引当金	△ 371	△ 421
固定資産	54,277	53,720
有形固定資産	34,211	34,727
建物及び構築物	7,071	7,263
機械装置及び運搬具	6,482	6,984
土地	19,941	19,967
その他	716	512
無形固定資産	793	804
投資その他の資産	19,271	18,188
投資有価証券	17,377	16,629
長期貸付金	84	89
長期営業等債権	137	137
繰延税金資産	376	327
その他	1,533	1,243
貸倒引当金	△ 237	△ 239
繰延資産	4	8
社債発行費	4	8
資産合計	86,876	86,155

(単位：百万円)

科 目	当中間期(97期)	前期(96期)
(負債の部)		
流 動 負 債	33,164	30,030
支払手形及び買掛金	13,912	14,576
短期借入金	13,442	10,416
一年以内償還社債	1,800	1,500
未払法人税等	164	170
賞与引当金	835	811
特別クレーム損失引当金	62	75
事業構造改革引当金	320	—
その他	2,626	2,480
固 定 負 債	25,239	27,411
社 債	2,600	4,150
長期借入金	11,913	12,678
繰延税金負債	2,805	2,810
退職給付引当金	3,120	2,898
役員退職慰労引当金	29	362
訴訟損失引当金	351	262
預り保証金	3,806	3,892
負ののれん	266	357
その他	346	—
負 債 合 計	58,403	57,441
(純資産の部)		
株 主 資 本	29,664	29,637
資 本 金	18,181	18,181
資 本 剰 余 金	741	741
利 益 剰 余 金	10,782	10,752
自 己 株 式	△ 40	△ 38
評価・換算差額等	△ 1,911	△ 1,593
その他有価証券評価差額金	△ 45	550
繰越ヘッジ損益	△ 1	△ 1
為替換算調整勘定	△ 1,863	△ 2,142
少数株主持分	719	670
純 資 産 合 計	28,472	28,714
負債、純資産合計	86,876	86,155

中間連結損益計算書

(平成19年4月1日から平成19年9月30日まで)

(単位：百万円)

科 目	当中間期(97期)	前中間期(96期)	前期(96期)
売上高	33,792	32,797	67,530
売上原価	27,562	26,758	55,275
売上総利益	6,230	6,038	12,254
販売費及び一般管理費	5,516	5,392	10,827
営業利益	713	646	1,427
営業外収益	791	688	1,369
受取利息	72	72	157
受取配当金	36	32	42
のれん償却額	92	92	185
持分法による投資利益	457	368	768
その他	132	123	216
営業外費用	486	417	803
支払利息	255	228	486
訴訟損失引当金繰入額	50	—	—
その他	181	189	317
経常利益	1,019	917	1,993
特別利益	15	715	1,224
固定資産売却益	15	—	7
投資有価証券等売却益	—	715	1,190
その他	—	—	27
特別損失	530	819	1,485
固定資産除却売却損	—	—	97
投資有価証券等評価損	1	—	27
事業構造改革費用	—	128	130
事業構造改革引当金繰入額	320	—	—
減損損失	—	509	744
特別クレーム損失	—	133	164
訴訟損失引当金繰入額	—	—	262
異常操業費用	209	—	—
その他	—	47	58
税金等調整前中間(当期)純利益	504	813	1,733
法人税、住民税及び事業税	143	188	332
法人税等調整額	△ 80	235	485
少数株主損失(加算)	—	37	29
少数株主利益(減算)	2	—	—
中間(当期)純利益	439	427	945

中間連結キャッシュ・フロー計算書の要旨

(平成19年4月1日から平成19年9月30日まで)

(単位：百万円)

科 目	当中間期(97期)	前中間期(96期)	前期(96期)
営業活動によるキャッシュ・フロー	802	1,113	2,786
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 1,427	405	1,290
財務活動によるキャッシュ・フロー	522	△ 1,703	△ 2,512
現金及び現金同等物に係る換算差額	35	△ 1	31
現金及び現金同等物の増減額	△ 66	△ 185	1,596
現金及び現金同等物の期首残高	4,841	3,245	3,245
現金及び現金同等物の中間期末(期末)残高	4,774	3,059	4,841

中間連結株主資本等変動計算書

(平成19年4月1日から平成19年9月30日まで)

(単位：百万円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
平成19年3月31日 残高	18,181	741	10,752	△ 38	29,637
中間連結会計期間中の 変動額					
剰余金の配当			△ 409		△ 409
中間純利益			439		439
自己株式の取得等		0		△ 2	△ 2
株主資本以外の項目の中間連結会計期間中の変動額(純額)					
中間連結会計期間中の 変動額合計	-	0	30	△ 2	27
平成19年9月30日 残高	18,181	741	10,782	△ 40	29,664

	評価・換算差額等				少数株主 持分	純資産 合計
	その他 有価証券 評価差額金	繰延ヘッジ 損益	為替換算 調整勘定	評価・換算 差額等 合計		
平成19年3月31日 残高	550	△ 1	△ 2,142	△ 1,593	670	28,714
中間連結会計期間中の 変動額						
剰余金の配当						△ 409
中間純利益						439
自己株式の取得等						△ 2
株主資本以外の項目の中間連結会計期間中の変動額(純額)	△ 596	0	278	△ 318	49	△ 269
中間連結会計期間中の 変動額合計	△ 596	0	278	△ 318	49	△ 241
平成19年9月30日 残高	△ 45	△ 1	△ 1,863	△ 1,911	719	28,472

中間貸借対照表

(平成19年9月30日現在)

科 目	当中間期(97期)	前期(96期)
(資産の部)		
流動資産	4,614	4,617
現金及び預金	2,557	2,774
受取手形	10	12
前払費用	27	27
繰延税金資産	432	395
短期貸付金	386	332
未収入金	720	926
その他	480	147
貸倒引当金	—	△ 0
固定資産	56,991	55,891
有形固定資産	103	104
車両運搬具	16	17
工具器具及び備品	86	86
無形固定資産	26	25
電話加入権その他	26	25
投資その他の資産	56,861	55,761
投資有価証券	3,288	2,709
関係会社株式	29,111	29,111
出資金	119	122
関係会社出資金	1,620	1,620
長期貸付金	22,566	22,056
長期前払費用	21	25
前払年金費用	18	—
その他	216	218
貸倒引当金	△ 100	△ 102
繰延資産	4	8
社債発行費	4	8
資産合計	61,609	60,516

(単位：百万円)

科 目	当中間期(97期)	前期(96期)
(負債の部)		
流動負債	15,476	12,320
支払手形	1	1
短期借入金	13,569	10,387
社債(1年以内償還予定)	1,450	1,500
未払金	230	198
未払費用	28	27
未払法人税等	12	40
未払消費税等	3	—
前受金	72	65
預り金	91	81
賞与引当金	16	16
固定負債	23,301	24,810
社債	2,600	3,800
長期借入金	10,660	10,950
繰延税金負債	2,924	2,894
退職給付引当金	316	300
役員退職慰労引当金	—	281
関係会社事業損失引当金	6,538	6,585
その他の	262	—
負債合計	38,777	37,131
(純資産の部)		
株主資本	22,926	23,018
資本金	18,181	18,181
資本剰余金	1,438	1,438
資本準備金	1,438	1,438
その他資本剰余金	0	0
利益剰余金	3,331	3,421
利益準備金	190	149
その他利益剰余金	3,141	3,271
繰越利益剰余金	3,141	3,271
自己株式	△ 25	△ 22
評価・換算差額等	△ 94	366
その他有価証券評価差額金	△ 94	366
純資産合計	22,832	23,385
負債、純資産合計	61,609	60,516

中間損益計算書

（平成19年4月1日から平成19年9月30日まで）

（単位：百万円）

科 目	当中間期(97期)	前中間期(96期)	前期(96期)
営業収益	928	894	1,593
販売費及び一般管理費	528	490	1,027
営業利益	399	403	566
営業外収益	174	165	321
受取利息及び配当金	166	155	296
その他	8	9	24
営業外費用	252	253	531
支払利息	199	168	357
その他	52	85	174
経常利益	321	315	356
特別利益	47	710	1,185
投資有価証券売却益	—	710	1,185
関係会社事業損失引当金戻入益	47	—	—
特別損失	1	693	716
投資有価証券等評価損	1	2	2
関係会社事業損失引当金繰入額	—	691	714
税引前中間(当期)純利益	367	332	825
法人税、住民税及び事業税(加算)	95	115	271
法人税等調整額(減算)	143	286	438
中間(当期)純利益	319	161	658

中間株主資本等変動計算書の要旨

(平成19年4月1日から平成19年9月30日まで)

(単位：百万円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
平成19年3月31日 残高	18,181	1,438	3,421	△ 22	23,018
中間会計期間中の変動額					
剰余金の配当			△ 409		△ 409
中間純利益			319		319
自己株式の取得				△ 2	△ 2
自己株式の処分		0		0	0
株主資本以外の項目の中間会計期間中の変動額(純額)					
中間会計期間中の変動額合計	—	0	△ 89	△ 2	△ 92
平成19年9月30日 残高	18,181	1,438	3,331	△ 25	22,926

	評価・換算差額等	純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	
平成19年3月31日 残高	366	23,385
中間会計期間中の変動額		
剰余金の配当		△ 409
中間純利益		319
自己株式の取得		△ 2
自己株式の処分		0
株主資本以外の項目の中間会計期間中の変動額(純額)	△ 460	△ 460
中間会計期間中の変動額合計	△ 460	△ 553
平成19年9月30日 残高	△ 94	22,832

機能性製品

ダイワボウノイ
「アレルキャッチャーAD」販路拡大

ダイワボウノイ株式会社は、信州大学と科学技術振興機構との産・学・官で共同開発した、ハウスダストや花粉等に含まれるアレルゲンを吸着し皮膚トラブルの原因を除去する「アレルキャッチャーAD」の販路を拡大し、好評を博しております。

これまで、小児科、皮膚科、アレルギー科の病院での医師の紹介による通信販売でしたが、新たに調剤薬局等での店頭販売とインターネット販売をはじめました。(インターネット販売の詳細は、「いい肌ピオスドットコム」のホームページをご覧ください。)



アレルキャッチャー AD

http://www.e-hadapios.com/lineup/bland_item_list_60-1.html

なお、取扱製品は、乳児用カバーオール、キッズ・成人用長袖シャツおよび8分丈パンツ、チューブサポーター(腕や足に使用するチューブ状の包帯)です。

今後とも、顧客ニーズに対応した新製品の開発を一層進めるとともに、「アレルキャッチャーAD」の専用ホームページを立ち上げ、販売を強化してまいります。

機能性素材

ダイワボウノイ
「プラチナエリート」
レディースアートネイチャーに採用

テレビコマーシャルの1コマ

ダイワボウノイ株式会社の開発素材である「プラチナエリート」が、株式会社アートネイチャーの女性用オーダーメイドウィッグの新商品「セリアプラチナ」のベース素材に採用されました。

「プラチナエリート」は、活性酸素を分解することで話題のプラチナナノコロイドに抗菌防臭加工を付加し、洗濯耐久性にも優れた素材です。

ダイワボウノイ(株)が昨年夏に採用されてきました。

「プラチナエリート」を、ウィッグのベース素材に使用することにより、汗の匂いを防ぎ、洗っても効果が持続し、快適に過ごすことができます。

(株)アートネイチャーのホームページ <http://www.artnature.co.jp/> に商品紹介がされ、またテレビコマーシャルも放映されていますので、ぜひご注目ください。

ダイワボウプログレス 耐熱カートリッジフィルター 「ミラクルスター」新発売

ダイワボウプログレス株式会社は、ポリエステル繊維を使用した耐熱カートリッジフィルター「ミラクルスター」の販売を開始いたしました。

「ミラクルスター」は、これまでのオレフィン製のセキソウフィルターでは使用できなかった用途にも対応できるよう素材をポリエステルとし、ダイワボウポリテック株式会社の製造技術を駆使した優れた機能により、幅広い用途での使用が期待されます。

主な特長としては、素材がポリエステルのため、有機溶剤や高温液体への使用が可能になりました。また、フィルター全体が熱接着により一体化した成形体で構成されており耐圧性に優れるため、高粘性溶液への使用が可能になりました。さらには、フィルター性能に非常に重要である繊維密度勾配をつけることにより、高精度・高寿命を実現させました。

今後は、食品・飲料水分野、電子分野、化学工業分野、水処理分野などの新規顧客を開拓し、「ミラクルスター」がフィルター事業の中核となるべく販売展開を進めてまいります。



ミラクルスター



当社ホームページでは、
会社概要、取扱商品、
決算・投資家情報など
の情報を幅広く提供
いたしております。

<http://www.daiwabo.co.jp>

重要なグループ会社の状況

連結子会社は33社、持分法適用会社は7社です。
主な会社は以下のとおりです。

平成19年9月30日現在

会 社 名	資本金 (百万円)	議決権比率 (%)	主要な事業内容
ダイワボウノイ株式会社	100	100.0	繊維製品の製造、販売
ダイワボウプログレス株式会社	100	100.0	産業用資材・ゴム関連製品の製造、販売
ダイワボウポリテック株式会社	310	100.0	合繊綿・不織布の製造、販売
カンボウプラス株式会社	1,020	100.0	綿・化合繊布等の染色、樹脂防水加工
ダイワボウレーヨン株式会社	1,200	100.0	スフ綿・スフ糸の製造、販売
ダイワボウアドバンス株式会社	80	100.0	衣料品の販売
ダイワボウマテリアルズ株式会社	50	100.0	紡績糸・織物の製造
大洋化成株式会社	490	100.0	電気機器の組立、製造、販売
大和紡観光株式会社	50	100.0	ホテル業
ダイワボウエステート株式会社	30	100.0	不動産の賃貸借、管理
共和株式会社	148	100.0	不動産の賃貸借、管理
P.T.ダヤニ・ガメント・インドネシア	4,929 百万ルピア	56.3	衣料品の縫製
DAIWA DO BRASIL TEXTIL LTDA.	(出資金) 12,000 千レアル	90.0	綿紡績
蘇州大和針織服装有限公司	(出資金) 5,498 千USDル	76.7	衣料品の縫製
P.T.ダイワボウ・インダストリアル・ ファブリックス・インドネシア	3,300 千USDル	80.0	産業用織物の製造、販売
ダイワボウ情報システム株式会社	11,298	24.4	情報処理機器・通信機器の販売
株式会社オーエム製作所	1,660	28.1	工作機械・自動機械の製造、販売

- (注) 1 資本金は百万円未満の端数を切り捨てて表示しております。
2 ダイワボウマテリアルズ株式会社の議決権比率は、ダイワボウノイ株式会社の所有に係る間接保有比率であります。

役員

平成19年9月30日現在

代表取締役会長	武	藤	治	太
代表取締役社長 社長執行役員	菅	野		肇
代表取締役 専務執行役員	小	林	武	紀
取締役 常務執行役員	阪	口	政	明
取締役 常務執行役員	長	崎	裕	美
取締役 常務執行役員	北		孝	一
取締役 常務執行役員	柏	田	民	夫
常務執行役員	山	村	芳	郎
常務執行役員	門	前	英	樹
執行役員	鳥	居	進	一
執行役員	岡	本		彬
常勤監査役	足	立		裕
常勤監査役	寺	口	功	一
社外監査役	安	木		健
社外監査役	武	藤	満	夫

会社の概要

創 立	昭和16年4月1日
資 本 金	18,181,647,300 円
本 社	大阪市中央区久太郎町3丁目6番8号 御堂筋ダイワビル 電話 (06) 6 2 8 1 - 2 3 2 5 (〒541-0056)
東京事務所	東京都中央区日本橋人形町2丁目26番5号 日通人形町ビル 電話 (03) 4 3 3 2 - 8 2 2 0 (〒103-0013)
ホームページアドレス	http://www.daiwabo.co.jp
連結従業員数	4,299名(平成19年9月30日現在)

平成19年9月30日現在

発行可能株式総数 278,811,000株

発行済株式総数 136,605,158株

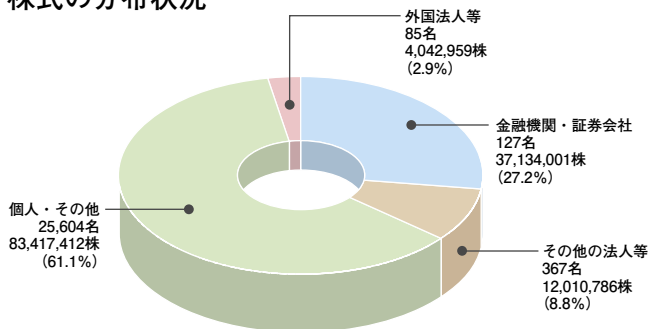
(注)上記のうち122,524株を自己株式として保有しております。

株主数 26,183名

大株主

株主名	持株数(千株)
株式会社三菱東京UFJ銀行	5,014
株式会社みずほコーポレート銀行	4,086
第一生命保険相互会社	4,000
日本興亜損害保険株式会社	3,172
日本マスタートラスト 信託銀行株式会社(信託口)	2,150
三菱UFJ信託銀行株式会社	1,428
日本トラスティ・サービス 信託銀行株式会社(信託口)	1,420

株式の分布状況

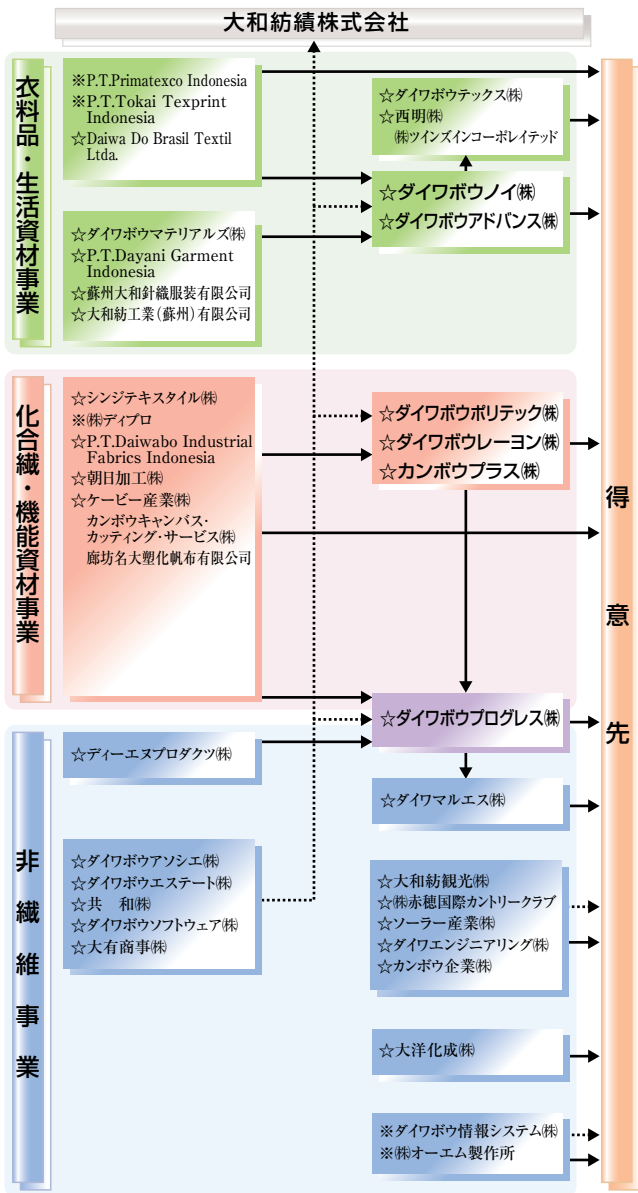


株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	6月
基準日	3月31日
公告方法	電子公告 (ホームページアドレス) http://www.daiwabo.co.jp/koukoku/index.html なお、貸借対照表および損益計算書は、 下記ホームページに掲載しております。 (ホームページアドレス) http://www.daiwabo.co.jp/kessan/index.html
株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社
同事務取扱場所 (お問い合わせ先)	大阪市北区堂島浜1丁目1番5号(〒530-0004) 三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部 電話(通話料無料)0120-094-777
同取次所	三菱UFJ信託銀行株式会社 全国本支店 野村証券株式会社 全国本支店 ※株式関係のお手続き用紙のご請求は、次の三菱UFJ信託銀行の電話およびインターネットホームページでも24時間承っております。 電話(通話料無料) 0120-244-479(本店証券代行部) 0120-684-479(大阪証券代行部) ホームページアドレス http://www.tr.mufg.jp/daikou/
単元未満株式の買取請求および買増請求	単元未満株式(1,000株未満の株式)の買取および買増請求を上記の株主名簿管理人にて受け付けております。なお、株券等保管振替制度により株券を証券会社等に預託されている場合には、お取引の証券会社等にお申し出ください。
株券失効制度	「株券失効制度」により、株券を喪失された場合の再発行手続きがより簡便となっております。詳細は株主名簿管理人にご照会ください。
上場証券取引所	東京・大阪

ダイワボウグループの状況

当社グループの主要な会社は次のとおりです。



→ 製品の流れ

..... サービスの流れ

☆ 連結子会社

※ 持分法適用会社

素肌が求めていた機能と風合い。

カルボキシル基は、リンゴ酸やアミノ酸などの一部を構成する原子の集まりです。OH基を持っているため、保水性に優れ、pHコントロールや抗菌防臭など、お肌にうれしい機能がいっぱい。このカルボキシル基を使って、お肌にやさしい素材ができました。

pH control (pHコントロール) Absorption (吸収) Regenerated fiber (再生繊維) Anti bacteria (抗菌) Moisture (保湿) Soft (やわらかさ)

PARAMOS®

パラモス

カルボキシル基練り込みレーヨンを使用した、新しい原糸が生まれました。



特長

- 独自のpHコントロールにより、素材を弱酸性に保ちます。
- 保水性に優れ、乾燥しやすい季節でもしっとりとした質感です。
- 抗菌防臭・消臭機能があります。
- ソフトでしなやかな風合いです。
- 汗を素早く吸収します。

ダイワボウノイ株式会社

TEL 06-6261-2408 03-4332-8225

http://www.daiwabo.co.jp/

